

弓達 秀樹 議員



一問一答方式

- ①観光まちづくり戦略推進事業
- ②学校設備の安全管理体制
- ③市内各路線の愛称

観光まちづくり戦略推進事業について

問 内子町では、外国人観光客の誘客に力を入れる方針を打ち出し、

県内でもいち早く6カ国語対応のQRトランスレーターを導入されている。観光の国際化による外国人観光客に対応するためのQRトランスレーターを今後本市の観光拠点にも導入、

整備する考えはないか。

答 今後外国旅行者は増加するものと予想され、本市の観光戦

略上も重要な位置にあるものと考えています。

今後のインバウンド施策の展開については、広域連携等も考慮しながら、観光まちづくり戦略会議において総合的に検討していきたいと考えています。その中で、受け入れ環境整備についても、QRトランスレーターの導入やアプリ開発など、具体的に検討していきたいと考えています。

内子町で導入されているQRトランスレーター(写真は、うちこまち歩きマップ内子町提供)



学校設備の安全管理体制について

問 今年1月、福岡県大川市の小学校4年生の男子児童が、体育のサッカーの授業中、ハンドボール用のゴールの下敷きになり死亡したと報道があった。事故が起こった学校では月1回点検することになっていたようだが、昨年10月を最後に点検は行われていなかったと報道されている。

市内の小・中学校の安全管理体制は、ここ数年どのような人員で日々の管理が行われているのか。

答 市内全ての小・中学校においては、学校安全計画を策定し、全ての教職員の共通認識のもと、計画に基づいた取り組みを進めているところ です。

学校内の消防設備、浄化槽等の法令に基づくもののほか、遊具等も含めた設備については、毎年専門業者が点検を行っています。そのほかの設備等については、学校保健安全法に基づき、教職員が安全点検を行っています。このたびの事故を契機として、本市の学校における安全対策により万全を期して、緊張感を持つ

て取り組むよう、適宜指導を行っていききたいと考えています。

市内各路線の愛称について

問 わかりやすく親しみのある通りの愛称づくりは、住民からの公募などによって、全国各地で住民主体のまちづくりの一環として行われている。

地域住民が身近な路線に愛着を持ち、まちのイメージや認知度に変化をもたらし、まちづくりの気分を高める効果が期待できる路線の愛称を市内の主要路線の中から選定し、公募するような企画はできないのか。

答 現在、本市において路線を選定し、公募によって愛称を募集する企画というのは考えていませんが、今後については、市民からの要望に対応できますよう、愛称設定に関しまして公募、または住民提案等の考え方を基準等を検討し、市民に親しまれる道路づくりを進めていきたいと考えています。